

## 第 1 回「電子国土基本図のあり方検討会」議事概要(案)

平成 24 年 2 月 23 日に開催された「電子国土基本図のあり方検討会」において、国土地理院から電子国土基本図の紹介、電子国土基本図利用のための「マップシート」の紹介、利用者からの指摘事項とその対応の考え方等の説明を行った。

それらに関して、委員から以下のとおりご意見をいただいた。

なお、次回の委員会は本年 3 月下旬に開催予定である。

### 【電子国土基本図の利用に関するご意見】

○災害時には地図情報で示すべき被災情報等が時間を追って増えてくる。それを簡単に取捨選択して地図上にうまく整理して表示するシステムがあることが望ましい。

○災害時に有効な道路が随時変わっていくので、そのような随時変わる情報をリアルタイムに表示できるシステムがあることが望ましい。

○地理院のマップシートは有効な手段であるが、ビデオなどを作成して周知する環境づくりに努力すべき。事故の危険箇所を示すのにも有効である。

○災害時において、例えば 4 車線道路の場所、災害時の拠点病院、ヘリポートなど必要な情報が 1 枚の紙に記載されていれば、災害の緊急時・平素の危機管理にも利用できる。さらに、地方公共団体でニーズが替わってくるので、ニーズに応じた情報内容の選択にも対応できるよう配慮すべき。

### 【電子国土基本図の地図（電子国土 Web 上の地図）の表現に関するご意見】

○電子国土 Web の背景図は建物 1 軒 1 軒まで表示され細かくなったが、場所が読み取りにくい。例えば注記、公共施設の建物の名称などを増やして見やすくするなどの工夫がなされるのが望ましい。

○地図の図式について、緊急時でも見ればすぐに分かる表記であることが重要であり、今まで皆さんが受け入れてきたものを基本として検討すべき。色の表現なども色彩学的に確立された方式を参考とすべき。

○地図として表すには情報密度が適当であること、またグラフィックデザイン的なセンスがあることが望ましい。

○国土地理院の電子国土 Web の背景図は、字が重なったり、文字と文字の間の空白がないなど、アート性がなくなってしまった。デジタルデータを使っているにもかかわらず、人間にやさしいのはアナログ表現であり、それに必要な技術を蓄積・利用することが必要。

○アート性がない事例として、地形図において河川名称など曲線部が多い地物は名称を 1 文字ずつ地物に沿って配置していたが、電子国土基本図では文字をいずれかの方向で直線

上に配置されている点があげられる。また山の名称にはひとまとまりを示す総称と個々のピークを示す名称があるが、そのような階層性が判読できるよう図示すべき。

○2万5千レベルで表現する場合には、転位や総描がない表現は読みやすさという観点からは無理がある。近く並行している道路は転位が必要であり、鉄道の表記も細い線では見づらい。縮尺に応じ、見やすく適切な表現をしていく視点が重要である。

○スイスの地形図は、シェーディングも自動化されている。従来の技術の伝承も考慮し、特に地形図の売れているところなどは、現行のデジタルデータからであっても美しい地図を作成してほしい。

○電子国土 Web で建物記号が欠けたり、文字がずれているところがある。このような不自然な表現は修正すべき。

○電子国土 Web は利用者が XML で真位置の上に地図情報をのせることができる設計がされているが、それを利用する者が少ない。一方、地図をみるというだけの利用者は多く、その場合図式表現を工夫する必要があるという意見が出ると、データを真位置用と表現用と二重に維持管理することになるが、対応できるのか。

(これに対して、国土地理院より、「電子国土基本図に各個人が作成した地図を載せて配信する、などの使われ方もしていただきたいし、また一方、昔、地形図として印刷していたものに匹敵する見やすい地形図も作る考えである。」旨回答。)

○GIS で用いるのに適したデータを使うにしても、カートグラフィ的にも一定レベルの表現に発展させ、共通となる地図として利用できるようにすることが必要。

#### 【電子国土基本図の取得内容に関するご意見】

○ 3年前の委員会の議論（「国土地形基盤に関する調査および委員会支援業務報告書」）では、2万5千分1地形図の更新の遅れが課題として示されていたが、改善が図られたのか。今回の検討会はこの報告書の内容の検証から始めるべき。

(これに対して、国土地理院より「紙地図の場合は印刷して刊行するまでにタイムラグが生じることがあった。現在、道路等公共施設は管理者から情報をいただいて迅速に更新する取り組みに着手した。」旨回答。)

○送電線は都市部でどの家の上を通っているかがわかるのが適切でないから記載しないこととしたという説明があったが、これは初めて聞いた。

(これに対して、国土地理院より「特に都市部の2500レベルの精度を確保できるための資料を入手できていないこと、また送電線を維持管理するために全部測量することは現実的ではないという趣旨で述べたものである。」旨回答。)

○海洋情報部と国土地理院は、今後とも情報整備について連携・共有化を図ることが望ましいが、どのような取り組みがされているか。

(これに対して、海洋情報部より、「海に関する情報整備については、新たな取り組みも含め、今後とも国土地理院と連携して対応する。」旨回答。)

○海洋情報部の送電線の情報の入手状況如何。

(これに対して、海洋情報部より、「海上保安庁では航海安全のため送電線の情報を海図に掲載している。情報の入手は電力会社宛てに行っているが、最近は、入手の困難な場合も考えられるのではないか？」旨回答。)

**【電子国土基本図・地形図の教育分野での取扱に関するご意見】**

○教育の現場では、教科書の地図帳で地形図が使われており、これまで 100 年近く続いた地形図から電子国土基本図に移行することとなり、今後どう教育するかが課題となる。紙地図の表現方法の移行についてのロードマップを示してほしい。

○デジタルデータが増えてきても過去の地形図を読み取る能力は必要で、子供たちの今後の教育の観点からも紙地図図式が踏襲された図面を引き続き提供することが必要。